



[ei,ei]

13号  
2017.9.20

「自然や環境」のことに触れなくなったり、  
ライフスタイルを考えたりするヒントが  
この「エイ・エイ」の中に入っていますヨ。

CONTENTS

- ◆あまくまハチミツ探しの旅⑥
- ◆情報交流コーナー：あま・あま・ボン
  - ・尼崎の森中央緑地で「森市祭」が開催されました！
  - ・グリーンレジリエンス大賞「優秀賞」を受賞
- ◆新・尼崎物語 vol.1「大物川」
- ◆尼崎21世紀の森LIFE:
  - ・シリーズ企画 森林イノベーションの源泉⑥
  - ・What's「尼崎21世紀の森づくり？」



【ei,ei】  
Aa  
「環境とライフスタイルを考えるフリーマガジン」2017年9月20日発行 NPO 尼崎21世紀の森 <http://www.amashinorin.net/>

個人限定



ご好評につき取扱期間延長  
毎月1万円  
契約期間2年

育てる苗木で育つ預金  
定額積立定期預金  
どんぐりの木

お取扱い期間

平成29年6月1日～平成29年10月31日(第7回目)

第6回：平成28年6月1日～10月31日 第7回：平成29年6月1日～10月31日  
第8回：平成30年6月1日～10月31日 第9回：平成31年6月3日～10月31日

- 1.新規ご契約時に「花の種」をプレゼント
- 2.満期時にはエコグッズをプレゼント

※満期時のプレゼントは、当初ご契約いただいた本商品の目標積立額の掛込が終了されたお客様にのみです。



## 「あましん」環境活動 NEWS

◆平成29年5月27日(土)に尼崎の森中央緑地において、当金庫役職員とその家族で「あましん活動の森」の除草・間伐活動を実施致しました。「尼崎21世紀の森づくり」の一環として、例年開催している「あましん植樹祭」でお客様と植樹した苗木をしっかりと育てていく為の活動です。例年参加者も増え、今年は過去最多人数の約920名での実施となりました。将来を考えた活動内容に変えていく中で、今回は間伐材をチップで細かく碎き、地面に敷くことで、管理者用の通路をつくるために活用しました。今後の活動で通路を徐々に伸ばしていく予定です。当金庫では苗木を「植える」、「育てる」ということはもちろん、「活用する」ことも視野に入れて森づくりを今後も続けていきます。



「尼崎21世紀の森づくり」を応援しています。  
 **尼崎信用金庫**  
 AMASHIN  
<http://www.amashin.co.jp>



あましん 検索

あまくまハチミツ探しの旅



21世紀の森で生まれた「あまくま」が、森を出て尾崎の街を紹介するよ!

Amakuma

- ◆誕生日: 8月2日
- ◆生まれたところ: 尾崎21世紀の森
- ◆性別: 妖精
- ◆好きな食べ物: ハチミツ
- ◆得意なこと: おいしいハチミツを見つける

vol. 6

木木の自由研究フェス

2017.8.27  
10:00~16:00



鳥の「おうち」を作ってみよう!

10組大募集



参加の呼びかけチラシ



尾崎の森・中央緑地パークセンターで開催!  
「森の自由研究フェス」

「森の自由研究フェス」は、自然をキーワードにした体験型の企画で、ワークショップや体験教室など、いろいろなメニューが盛りだくさんで、約300名の参加者があり、子ども達だけが楽しむのではなく、大人も童心にかえり、ワクワクするイベントでした。  
あの頃にこんなイベントがあれば…夏休みの自由研究も完璧だったのに、と思った方もおられたのではないのでしょうか。



私たち「あまん樹」も鳥の「おうち」を作ってみよう!という中で巣箱つくり体験教室をしました。



色々なところで命の教育をされている。私たちの恩師中岡先生にお手伝いしていただきました。



六甲山の奥池に2012年4月つけた巣箱で育つシジュウカラ



私たち「あまん樹」です!

初めまして、あまん樹です。私たちは地元尾崎を中心に、たくさんの方たちとつながり「もっちゃん」もっちゃん、いことをしたい!そんな思いで活動をしています。  
「あまん樹」は、私たちがその活動が尾崎に根を張り支え、枝葉のように大きく広がっていきたいという願いを込め、誕生しました。



中学生の時に技術の授業で、「巣箱つくり」があり、学校の近くの公園や県外の森に巣箱をかけて観察しました。  
自分が作った巣箱の中に、鳥たちが巣をつくり雛がかかるのを見て、感動したのを今でもはっきり覚えています。  
その時に、私たちが感動したことを小学生たちにもぜひ、味わってほしい。そんな思いで、「巣箱つくり教室」を開きました。



完成の後にはみんなで記念写真①

これからの予定

- 第2弾 鳥のおうちを付けてみよう (10月ごろ)
- 第3弾 鳥の成長ぶりを観察してみよう (3月ごろ)



完成の後にはみんなで記念写真②

〈巣箱教室主催〉あまん樹 [nikonnicoro25@gmail.com](mailto:nikonnicoro25@gmail.com)

〈協力〉NPO 尾崎21世紀の森 尾崎市杭瀬北新町3-2-2 大信ビル3F <http://ama21mori.net/>

vol.1 大物川(だいもつがわ)



小さいながら清々しい雰囲気の大物主神社。



緑豊かな大物川緑地の能舞台

阪神大物駅南、川の形のままコの字を描くように公園が続いています。しばらく歩くと、石段が組まれた広場に出ます。ここは能舞台で、交通量の多い街中にあるとは思えない、凜とした佇まいです。海運の要所として発展した尼崎・大物では様々な歴史的事件が起きましたが、中でも有名なのは、源義経が大物の浦から

昔々、大阪湾の潮流が運ぶ砂でできた町、尼崎・大物。その中心を流れていた大物川は、水質汚染と地盤沈下の影響で60年代に埋め立てられ公園になりました。西は庄下川につながり、東はすぐ海という、ほんとに短い大物川。今回は、今は失われたこの川を下ってみることにしました。

江戸時代に入り尼崎城が再建、寺社が現在の寺町に移転して、尼崎は城下町になります。大物川も城の堀として使われました。外堀がすべて海につながる尼崎城は、海に浮かぶ城、琴浦城とも呼ばれていたそうです。公園はまだ続きますが、大物橋北の交差点を北に折れ、(大物主のおもひ)

船出したという伝承。文楽や歌舞伎にもなって語り継がれてきました。この能舞台でも毎年、その物語が演じられるそうです。そもそも大物とは大きな材木の意味。大物川の港は、その時々権力者へ物資の輸送を担いました。西日本だけでなく海外からも人や物資が集まり、寺社も多く造られ、市や芸能も盛んであったようです。様々な特権が与えられていたという史料も残っており、小さな砂州の町が、大阪湾有数の自由な自治都市であったと想像すると、なんだかドキドキしますね。



汁醤油発祥地

神社に。ここには義経滞年の碑と、生醤油発祥の碑があります。明治に入ると大物は「尼の生揚」と呼ばれた醤油の醸造で有名になりました。川沿いには醸造所が並び一時は海外に輸出されるほどの人気でしたが、今それらの建物は残っていません。



以前は川だったことを思わせる、蛇行した緑地。

尼崎のいろいろな側面を見てきた大物川。天災や戦火にも見舞われました。今は水のかわりに木々が茂り、豊かな緑がひんやりとした空気を作っています。海が作った町の移り変わりを思いながら歩くと、そこにはまだ、かすかに歴史の記憶が残っているように感じます。



緑地入り口ある着船橋址の碑。

横山知代子(尼崎物語キ組)  
協力: 辻川敦氏(尼崎市立地域研究資料館館長)

あまあまポン

このページでは「尼崎21世紀の森づくり」の活動の様子をお知らせします。



3月19日(日)

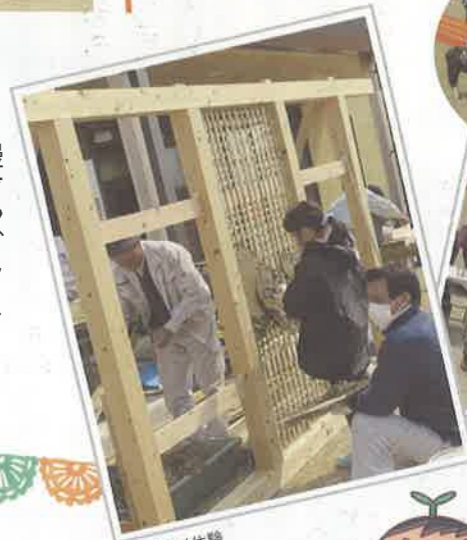
尼崎の森中央緑地で、「森市祭」が開催されました!



漫才やダンスなどのステージイベント、子供たちに人気の乗馬体験、茅葺き民家説明会や土壁塗り体験、農産物や飲食販売など、ご家族みんなで楽しめるイベント盛りだくさんでした。当日は、3千人がイベントを楽しみました。



乗馬体験



土壁塗り体験



クラフト体験



私たちの取組が、グリーンレジリエンス大賞「優秀賞」を受賞!!

NPO 尼崎21世紀の森はこの度、「グリーンレジリエンス大賞」の「優秀賞」を受賞しました。



NPO 尼崎21世紀の森: 廣川代表理事

このグリーンレジリエンス大賞は、レジリエンスジャパン推進協議会が、次世代に向けた強靱な国・地域・人・産業づくりにおいて活動や技術・製品開発等への取組みを発掘、評価、表彰する制度として創設した「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」の部門の一つとして、平成28年度に新設した制度です。

自然の資源や仕組み・機能を活用し、国土強靱化や地方創生に貢献する先駆的な活動を表彰するもので、全国から218件の応募がありました。

3月15日には、松本純国土強靱化担当大臣や山本公一環境大臣等の出席のもと、東京・有楽町朝日ホールで表彰式が開催され、廣川代表理事に盾と表彰状が授与されました。

廣川代表理事は「我々の尼崎21世紀の森構想の推進に向けた、産業と環境が共生するまちづくりの活動が認められ、大変嬉しく思います。このことは、エコキッズメッセや運河博覧会等の開催に際し、多大のご理解とご支援をいただいた行政や尼崎商工会議所の会員事業所のおかげと深く感謝しております」と、受賞の喜びを語りました。



尼崎臨海部にかつての**自然環境＝美しさ**を取り戻したい。  
日本の**発展を支えてきた誇り**を取り戻したい。  
かつてこの地に存在した**人間の活気**を取り戻したい。

そんな願いを込めて、平成14年3月に  
『**尼崎21世紀の森構想**』は、策定されました。それが尼崎市全体に  
美しさと誇りと活気を取り戻すきっかけになれば、という希望を持って。



知れば知るほど  
あまがすき  
100  
尼崎市創100周年

**江戸時代**  
この尼崎には尼崎城という江戸幕府の直轄地であった、大坂の西の玄関口を守る重要拠点があったのをご存知ですか？

**明治の初め**  
この瀬戸内海が「世界で最も魅力的な景観」と絶賛されていたのをご存知ですか？

**明治から昭和**  
高度成長期の尼崎  
この尼崎臨海地域が関西の重化学工業の中心集積地として、わが国の産業や経済の高度成長を支える役割を担っていた事をご存知ですか？

**昭和40年代**  
この尼崎市が国道43号・阪神高速神戸線とともに公害問題が深刻化し、「公害のまち」という不名誉な称号を与えられた事をご存知ですか？

**近年**  
巨大工場が建設され一時的に臨海部での産業の活性化に期待が高まるも、世界経済の波の中で再び冷え込んでいる事をご存知ですか？

**これから『尼崎21世紀の森構想』**  
かつての**自然環境＝美しさ**  
日本の**発展を支えてきた誇り**  
**人間の活気**を取り戻したい。

環境改善を利用した先進的な「まちづくり」それが『この尼崎21世紀の森構想』の本質です。ナカナカ素敵な計画だと思いませんか？100年間のこの計画、進めて行けるのは、この尼崎が大好きな一人ひとりの市民、企業の皆さんなのです。

一緒に尼崎21世紀の森づくりをしませんか！  
編集スタッフを募集しています！

「環境とライフスタイル」を考えるフリーマガジン  
エイ・エイ：2017年13号(9月20日発行)  
NPO尼崎21世紀の森 Aa 編集局  
ホームページ <http://ama21mori.net/>  
〒660-0815 尼崎市杭瀬北新町3-2-2 大信ビル3F  
TEL 090-8233-4079

Chief Editor 岸本 幸三  
Editor/Writers 池田 和也 幸野 里沙 森上 恒  
石井 康之 菅 真澄 藤原 悟  
薄井 洋一 守 宏美 山本 仁湖  
太田 洋平 森井 敬介 横山知代子  
Designers 児玉 泰江 鳥山 大樹 ヒロコ・TG  
杉本さやか 田万まどか  
Print ウニスガ印刷(株)

**編集後記**  
夏といえば、夏休み。夏休みにはたくさんの子どものイベントがあります。子どもの時に体験したことって、何事にも変えがたい大きな財産になると思っています。いろんなものに感動を覚えたり、「面白い」「カッコイイ」って思ったり、気づいたら没頭していたり。時には「嫌いだ」って思ったり、憧れもしてみたり…。「尼崎21世紀の森」って、そんな素敵な経験をたくさん生み出す可能性を持っていると思うんです。広大な土地に、豊かな自然。そして、「自分と共に成長していく」森の姿。ここでしかできない経験がたくさんあります。「尼崎21世紀の森」で、たくさんの体験が生まれ、たくさん「思い出」ができるといいなあと、そんなことを思っています。(太田洋平)

第5回  
**森林イノベーションの源泉⑤**

～森林資産?～

今、森が生まれ育まれようとしている尼崎。自治体としては日本最大の森林面積を誇る岐阜県高山市。一見すると全く関係ない両都市だが、ここでは高山市を基盤に活躍する井上氏から森林業から派生する多様なイノベーションを紹介してもらい、森林からもたらされる恩恵に思いを馳せ、これから森づくりを活性化したい尼崎の希望につなげていきたい。

**①森林の集約化による効果と規模の経済**  
多くの森林が集約され施業面積が大幅になることで生み出す価値を向上させることを意味します。たとえば、8.1円/㎡の場合、仮に1ha集めても810000円/ha(1万㎡)の金・情報に大別されます。本稿ではモノ(山林)についてみていきたいと思えます。

**②森林そのものの利用形態による付加価値の向上**  
現在価値のないと評価されている山林がもつ価値を、より価値のあるものへ変化させる取り組みが必要です。たとえば、前項までに扱ってきたような、灯油に変わりバイオマスエネルギーとして利用を促進することや、ステンレス製の机を木に変えるなどといった社会の中で木材を

使うということについての価値観の変容に資する取組を行う事によって森林そのものの価値を向上させていく事が必要となります。これは一筋縄ではいきませんが、山林という価値をどう再定義し、そしてどう活用するかといった点が重要となります。これらを担保する取組が必要となります。ここでは特に森林資産そのモノについて論じています。それ以外にも、人(人材育成)、お金、情報(森林に関する研究が挙げられたとすれば、利用促進の為の研究等々)が同時に整理され現実の経済構造に落とし込まなければ資産価値の最大化は成し得ません。山林を通じた事業化を行い、持続的な経営を行うには、その中でも黒子としての金融の機能が重要となります。次回原稿では、これまでの議論を踏まえた上で森林と金融の関わりをみていきたいと思えます。



井上 博成 氏  
京都大学大学院経済学研究科博士課程：植田研究室所属。岐阜県高山市出身。自然エネルギー利用日本一や木材の持続的な利用を目指して研究・実践活動を進めている。